

小学校 実践例

主題名 「あきらめない心」
教材名 「太鼓踊り」(希望と勇気、努力と強い意志)

道徳的価値について

- 人間としてよりよく生きていくためには、自分自身を高めようとする意欲をもつことが大切であり、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力し、やるべきことはやり抜く忍耐力を養うことが求められる。
- ただ漫然と努力するだけでなく、より高い目標を立て、希望と勇気を持ち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことが重要である。

教材について

主人公の練習がきつくて休んでしまったときの気持ちや祖父の話や聞いて太鼓踊り本番に向けて粘り強く取り組もうとする姿から、目標に向かってくじけずに努力しようとするということについて深く考えることができる。

児童について

- この段階の児童は、高い理想を追い求める時期であり、先人や著名人の生き方に触れる機会が多くなり、その生き方に憧れたり、自分の夢や希望を膨らませたりする。
- 自分自身に自信がもてなかったり、思うような結果が出なかったりして、夢と現実との違いを意識することもある。

ねらい

人間がもつ心の弱さを理解し、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜こうとする心情を育てる。

指導にあたって

- 積極的に前向きな自己像を形成させるために、練習を休んだ主人公の心の弱さに共感させた後、困難を乗り越えようとする主人公の心の強さについて考えさせる。
- 主人公が一度は弱音をはいてしまったが、再び太鼓踊りの練習にがむしゃらに取り組んでいるときの心情について多面的・多角的に話し合うことで、ここでの道徳的価値についての理解を深めていけるようにする。

板書



実践記録

	主な学習活動と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 くじけず努力してやり抜いてよかった経験とできなかった経験について話し合う。 ・ テストで100点とるために家で復習をがんばった。 ・ サッカーの練習をさぼってしまった。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 夢や目標を実現するにはどんな心が大切だろう。	○ ねらいとする内容項目へ焦点化させるために、よりよい自分になるために目標に向けて努力したことを想起させる。 ○ 努力してやり抜くことの難しさに気付かせ、問題意識を高めさせるためにできなかった経験を振り返らせる。
展開	3 教材「太鼓踊り」を読んで、自己の生き方について考える。 (1) 主人公の心情やその変化について話し合う。 ア 参加しようと思ったわけ イ つらい練習をしているとき ・ 手足が痛くてもうやめたいな。 ・ 思うようにできなくてつらい。 ウ 祖父からの話を聞いたとき ・ じいちゃんも小学生のときにがんばっていたんだ。 ・ この前さぼってしまったな。 エ 本番に向けてがむしゃらに練習するとき ・ 自分の決めたことを最後までやり抜こう。(努力と強い意志) ・ 仲間や地域のためにもがんばるぞ。 オ 本番が終わったとき (2) 「めあて」についてどんな心が大切かについて話し合う。	○ 自己の生き方を見つめながら考えやすくさせるために身近な年中行事であることを補説する。 ○ 主人公の心情を多面的・多角的に考えさせるために、主人公の心の弱さや様々な人への思いを交流し、黒板に可視化する。 ○ ワークシートで自分の考えを捉えさせる。 ○ 努力することで自信がついたり達成感を味わったりすることに気付かせるために、諦めずに努力することがなぜ大切なのか考えさせる。 ○ 他者の多様な感じ方や考え方に触れさせるために、心情パラメータを使い、板書化する。
終末	4 学習したことを振り返り、これからの自己の生き方について考える。 5 教師の説話を聞く。	○ 全員に自己の生き方について考えさせるために、児童のこれまでのがんばりや今がんばっていることを把握し、書けない児童には声かけをする。 ○ 希望と勇気をもって努力していきこうとする心情を高めさせるために教師の体験談を聞かせる。

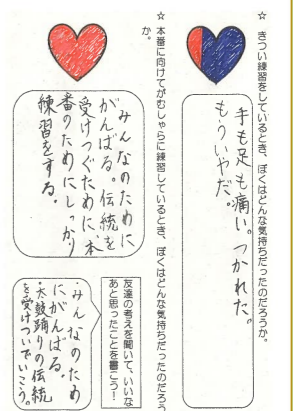
実践を振り返って

【成果】

- 太鼓踊りが身近な年中行事であればスムーズに資料に入れることができた。身近でない場合でも動画や写真を使うことで資料につなげることができた。
- きつい練習をしている2つの場面(本番2ヶ月前、祖父から話を聞いた後)では心情パラメータを使うことで心の弱さに共感しながら多面的・多角的に考えることができた。

【課題】

- 自分で決めた目標(始めたきっかけ)を押さえないとねらいに対しての子どもたちの考えがぼやけてしまう。
- 努力することのよさを議論する時間を十分に確保することで自己の生き方について考えを深められると感じた。



【ワークシートの活用】